

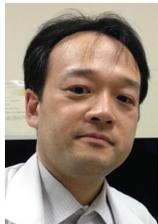
「TOMODACHI アフラック プログラム」第2回米国派遣医師を決定
～ 小児がん研究に携わる医師の米国留学助成制度として ～

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長:外池 徹)は、このたび、日米交流事業「TOMODACHI イニシアチブ」(<http://usjapantomodachi.org>)の一環として展開する米国留学助成制度「TOMODACHI アフラック プログラム」において、第2回の米国への派遣医師を北海道大学の**大島淳二郎氏**に決定しました。

今回の派遣にあたり、大島氏は「米国で多くの症例と臨床研究の現場を肌で学べるこのような素晴らしい機会をいただいたことをとても光栄に思っています。懸命に病気と向きあう子どもたちのため、この貴重な経験を必ず何らかの形で還元したいとの思いのもと、決意を新たにしているところです」と抱負を語っています。

大島氏は、2014年8月から2015年1月の半年間、Aflac 米国本社が支援する「アフラックがん・血液病センター」(米国ジョージア州アトランタ)に留学し、同センターが実施するプログラムの研修に取り組みます。なお、アフラックは大島氏に対して奨学助成を行います。

◆大島淳二郎氏 略歴



北海道大学病院小児科特任助教。1999年3月に北海道大学医学部卒業。北海道大学附属病院、社会事業協会帯広病院、日鋼記念病院などの各小児科に勤務し、2006～2009年、埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所にて胎児性腫瘍の原因遺伝子やエピジェネティック異常と予後に関する研究に従事。2009年4月より北海道大学病院小児科医員。2013年5月より現職。

◆＜TOMODACHI アフラック プログラム＞概要

【TOMODACHI イニシアチブとは？】

米国政府・米日カウンシルの主導のもと、東日本大震災後の復興を支援するとともに、長期にわたり日米間の文化的・経済的な結び付きを強化し、友好を深めるかたちで投資を行う官民によるパートナーシップ。夢を持ち、その実現に向け計画を立て実行する日米の将来の世代、すなわち互いの文化や国を理解し、成功と社会への貢献に必要な世界中で通用する技能と国際的な視点を備え、日米関係の将来に深く関わる「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。

【TOMODACHI アフラック プログラム(第2回)】

目的	米国における最先端の小児がん研究の経験を通じ、日本での治療・研究に役立てる
対象者	小児がんの基礎、診断、治療等の研究に携わる日本在住の医師(40歳未満)
派遣期間	2014年8月～2015年1月

※ 派遣医師の選考については、「日本小児血液・がん学会」の協力のもと、「TOMODACHI アフラック プログラム」選考委員会(委員長:石井榮一氏)で行っています。

※ 本プログラムの事務局は、認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク(東京都新宿区下落合 3-2-12-302/03-3952-2640)が務めています。